

第 1 回大田原市総合計画後期基本計画審議会

議事録（令和 2 年 11 月 5 日）

10:00～11:30 大田原市役所 301・302 会議室

出席者：小林雅彦会長、吉岡博美副会長、高山誠委員、玉木茂委員、植竹雅弘委員、佐藤宏委員、古谷忠委員、筒井雅治委員、小林朋子委員、堀内直美委員、伊藤都委員、岡本允久委員、屋代ゆき子委員、富塚保委員、北原裕子委員

欠席者：車田宏之委員

開会	
事務局	只今より「第 1 回大田原市総合計画審議会」を開催します。
委嘱状交付	
市長	代表として高山誠委員に委嘱状を交付。
市長あいさつ	
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● おはようございます。秋も深まり紅葉も進み、山々は冬景色となってきました。今年は何んといっても、コロナ禍ということで、市民の皆様、世界中の皆様が大変な思いをしてこの一年を過ごしております。大田原市では現在までに 3 名の感染者が発生しております。今後、インフルエンザとの複合感染が心配になってきます。そのなかで、大田原市ではインフルエンザのワクチン接種補助制度を設けているので、是非、ご家族等、友人などにもご紹介頂き、ご利用頂きたいと思います。</li> <li>● さて、本日は、第 1 回大田原市総合計画後期基本計画審議会ということで、委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきました。市長の諮問に応じる形で総合計画後期基本計画に関する事項を調査、審議して頂き、その結果を市長に届けて頂く会議であります。委員の皆様は、国または県、関係団体の職員、関係団体のなかで識見を有する方など 16 名の委員の方を推薦させて頂きました。今年度は今回のみですが、あとは、令和 3 年度に 2 回の会議を予定していますので、忌憚のないご意見を頂きたいと思います。 今回の会議における特徴的な事項としては、子育て世代の方に委員として公募して頂き、委員として参加して頂くことができました。そのため、会議では、子育て環境を充実させるという視点を持って議論頂けると幸いです。どこの市町村でも問題になっている人口減少に対して、どのような対応をしていくか、魅力的な街づくりに繋がり、地域を活性化させて頂けるような議論をお願いします。この地域で生まれた方々がどうしたら、この地で留まっていたかという視点を持って頂き、この計画を策定して頂ければ幸いです。話が長くなりましたが、以上とさせていただきます。</li> </ul>
審議会委員の紹介	
事務局	委員の紹介及び事務局の紹介を行った。
審議会の運営について（資料 1）	
事務局	<p>所掌事項について、大田原市総合計画審議会条例に基づき説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合計画後期基本計画については令和 3 年度中に策定する。</li> <li>● 本審議会は本日を含めて 3 回実施する予定である。</li> </ul>
会長、副会長の選任について	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 条例では会長、副会長の選任は委員の互選によるものとなっているが、意見はあるか。</li> </ul>
会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事務局に一任する。</li> </ul>
全委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 異議なし</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特に意見がないようなので事務局案として、会長に国際医療福祉大学 医療福祉</li> </ul>

	学部 医療福祉・マネジメント学科長で教授の小林雅彦委員、副会長については、大田原市観光協会 会長の吉岡博美委員にお願いしたいが、いかがか。
全委員	● 異議なし
事務局	● 異議がないようなので、会長は小林委員、副会長は吉岡委員にお願いする。
会長	挨拶を行った。 ● 私は福祉関係が専門ですが、産業関係などは素人なので、前期の時もこの場で色々勉強させていただきました。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。
諮問	
事務局	諮問書を朗読。
市長	小林会長へ諮問書を渡す。 (市長退席)
事務局	● これからの会議の進行は小林会長にお願いしたい。
議事(1)大田原市総合計画後期計画について(資料2)	
事務局	令和4年度から5年間のまちづくりの指針を示す「大田原市総合計画の後期基本計画」の策定に当たり、委員の方々に審議をいただくことになるため、非常に重要な会議である旨を説明した。
議事(2)策定スケジュール等について(資料3)	
事務局	資料を基に策定スケジュールと審議の進め方について説明を行った。
議事(3)市民意識調査の概要について(資料4)	
受託者	市民意識調査の概要について、調査票に基づき説明。
会長	● 調査票に基づく概要について意見を求めます。
委員	● 18歳以上の3,000名の方を無作為に抽出して調査を実施するというのですが、調査の相手が若者、女性、高齢者、障害者とか、子育て中の人など、調査対象者がバランスよく入りますか。 ● 市内にある10地区の市民の意識の差などが検討されているのでしょうか。
会長	● 事務局より回答をお願いします。
事務局	● 無作為に抽出しているので、バランスよく入った形になるという保証はありません。しかしながら無作為抽出の方が広く意見を収集することができると思っています。 ● 地区による意識の差についても、事務局内で様々な検討をしましたが、バランスを崩して抽出人数をコントロールする方法は考えていません。
会長	● ありがとうございます。ほかに何かありますか。
委員	● 無作為で調査をしたときに、調査結果は年齢で整理できますか。
事務局	● 総合計画は5年に1度、3,000した市民意識調査を継続的に行っております。大田原市の有効回答は、約50%となっており、これは他の市町村に比べてかなり高い回答率だと思います。 ● そのため、各地区、あるいは年齢別、職業別のデータを取った際に、人口が少ない地域でも最小限のデータは得られると考えています。 ● 5年ごとに前回調査結果と比較をしているため、市内全体の計画を作るという意味では、全体の傾向を把握できると考えています。 ● 小さい地域の懸念とか、特定の障害を持った方というご意見については、各種政策や個別計画で対応しています。
会長	● アンケート調査はあくまでも調査手法の一つです。そのため、無作為でやってみただけで完全な客観性は、保てないとは思いますが、他に有効な方法がないので、利用しています。 ● また、アンケートの結果は重要な参考値ですが、この結果が市民の意見を全て代

	表するわけでは当然ないはずです。
事務局	● 総合計画は少子化対策のような個別の計画に反映するための指針と考えている。
会長	● 本審議会で個別の計画について言及することで、個別の計画に反映できる可能性もあるため、発言していただいてよい。ただ、総合計画としては市の全体の計画をまとめることになる。
委員	● 無作為にという話ですが、年代で分けるなどもう少し検討できないでしょうか。
会長	● 無作為の抽出は、住基台帳を利用して作成していますか。
事務局	● 無作為抽出の方法につきましては、対象となるのが18歳以上の方の全ての基本データに番号(乱数)を振って、そこから無作為に順位をつけて抽出するという一般的なアンケート調査の手法を用いています。
会長	● 結果的にはアンケートを3,000通出して回収が良ければ、調査としては一定の成果は得られるので、それで十分だと思います。 ● 結果的に、年齢別などは、市の年齢構成と同じようになるはずです。 ● 他に何かありますか。
委員	● 対象者が18歳以上になると高校生も入るのでしょうか。
事務局	● 10月1日現在で18歳となった方を対象としているので、高校生も対象になることもあります。
委員	● 世帯年収については、対象者が高校生の場合はどのようにするのでしょうか。
事務局	● 世帯全体を想定していました。
会長	● 質問の内容が個人に対しての質問であるならば、例えば問9などは、対象者を明確にする必要があります。 ● 質問が曖昧なものが多いと思うので、再度、見直して頂きたい。ただし、前回調査を踏襲しているようだと言ったこともありますが、どうでしょうか。
事務局	● 質問を大きく変化させると、前回調査との比較ができないので、前回の質問内容を踏襲し、そのうえで時代にあった回答項目を加えています。
会長	● 了解しました。
事務局	● ご指摘の部分については、説明を補足するなどして前回調査の意図を変えないように修正します。
会長	● 他に何かお気付きのことがあれば
委員	● 関連質問ですが、無作為抽出で3,000名が対象だとすると、若者などは調査に協力して頂けないこともあるかと思いますが、そのあたり、調査対象者の意識向上などについて、何かしらの工夫があれば教えてください。
会長	● 調査に答えない人が生じてくるのは致し方ないと思います。 ● ただし、質問や回答が分かりにくいと回答率が下がるので工夫を求めたいと思います。
事務局	● 調査用紙の文面をもう少し工夫します。
会長	● 可能な限りの努力を求めます。 ● 意見としては、例えば、市内在住の高校生を別枠で、大田原市の将来像などについて調査は可能でしょうか。
事務局	● 大田原市では別途に、人口減少に対応する社会をつくるということで未来創造戦略という調査を行い、計画を作っています。 ● 対象が各市内の高校を参考にしていると、居住地で区分をすることができないので、大田原市在住者に限ってという結果にはならないのですが、高校生等、若者への意向調査は引き続き実施する必要があると考えています。
会長	● はい、ありがとうございます。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● その他この意識調査につきまして、いかがでしょうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問5の回答が職業となっていますが、答えの選択肢に困ります。</li> <li>● 例えば、法人として果樹園を経営者している人はどこを選択するのでしょうか。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分かりにくいですね、改善して頂きたいと思います。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職業の設定については再考させて頂き、直ぐに回答できるような形に分別したいと思います。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他の項目も含めてもう一度よく確認の方をよろしく申し上げます。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>● その他の問いに関しても、もう一度チェックさせていただいた上で、アンケートをさせて頂きたいと思います。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他に何かありますか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケート調査数の3,000名という根拠と、回答率が50%で優秀だという根拠についてご説明ください。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3,000名という人数については、前回調査と同数にするということで3,000名を対象としました。</li> <li>● このような調査では、他の自治体だと一般的な回答率は30%程度だと思います。高齢者、福祉関係等のアンケート調査の対象者が限定されたものだと60%、70%と高い回答率となることがあります。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 私の経験上と同じ感覚です。</li> <li>● 回答数が1,500あれば、調査として十分だと思います。</li> <li>● 以上で議事を終了します。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ありがとうございます。</li> </ul>
その他	
事務局	<p>報酬等の事務連絡を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 次回審議会は来年度5月頃を予定している。</li> </ul>
閉会	

※質問の多かった市民意識調査票(アンケート)の設問の内容については、内容を精査し、修正が必要な箇所を修正しました。その上で令和2年11月18日から令和2年12月16日までの日程で市民意識調査を実施しております。